

1. 流域マネジメントの推進								国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
貯留・涵養機能の維持・向上																	
1	スマート林業の導入等による作業の省力化・効率化	◎	◎	◎	◎	◎	◎							中	県農林	R5) 森林クラウドシステムの稼働による情報の共有化、航空レーザ計測による効率的な森林資源情報の把握(大野市の一部) R6) 航空レーザ計測データを活用した林業の効率化	
2	森林経営管理制度を活用した森林整備率の向上	○	○	◎	◎	○	○							中	市	R5) 手入れが行き届かない森林所有者への意向確認を実施 R6) 意向のある森林についての林業事業者による林況調査の経費補助	
3	林業従事者育成支援	○	◎	◎	○	○	○							短	県農林市	(県) R5) R6) ふくい林業カレッジによる専門知識、技術の習得、林業就業促進資金の貸し付け制度(研修、就業準備に必要とする無利子の資金) (市) R5) R6) 新規就労者を雇用する事業者の支援など林業従事者の雇用・育成支援の継続	
4	福井県水源涵養地域保全条例及び大野市森・水保全条例の適正な運用	○	◎	◎	○	○	○							中	県農林	R5) 届出に基づく指導・助言11件 R6) 適正な運用を継続	
5	民間主導の森林保全活動の推進	○	○	○	◎	◎	◎							中	市	R5) R6) 越前おおのエコフィールド管理・運営協議会が実施する森づくりイベント、平家平の保護・保全、森づくり活動団体への補助の継続	
6	未利用間伐材等の有効利用	◎	◎	◎	◎	◎	◎							中	国森林県農林市	(国) R5) R6) 国有林における木質バイオマス発電事業者等の木材搬出 (県) R5) 県有林における木質バイオマス発電等の木材搬出 7,030m ³ 、民有林における木質バイオマス発電等の木材搬出 5,030m ³ (市) R5) 市有林における木質バイオマス発電等の木材搬出 400m ³ 、木質バイオマス発電所への木材搬出支援 5,916m ³ R6) 木材利用の促進に向けた森林環境譲与税を活用したこども園等への大型遊具等の導入補助、店舗やオフィスの木質化支援	
7	河川維持流量に係る関係者間の情報共有と共通認識化	◎	◎	◎	○	○	○	○						中	—	—	
8	河岸かく乱など河川環境改善に向けた取り組みの継続	○	◎	○										短	県農土	R5) 未実施(参考:R4は真名川の河岸攪乱を約500m ² 実施) R6) 真名川の河岸攪乱を実施	
9	真名川における自然出水再現放流の実施	◎	○	○		○	○							短	国九統	R5) 真名川における自然出水再現放流を実施するため、真名川ダム弾力的管理について本格運用を継続 R6)運用を継続	
10	清滝川の土砂の浚渫など河川環境の改善		◎	○										短	県農土	R5) 大野市新南在家他で浚渫490m ³ 実施(参考:R4は約830m ³ 実施) R6)継続して実施	
11	赤根川の治水対策における地下水の河川への流出抑制に配慮した整備手法の検討		◎	○									○	中	—	—	
12	水田湛水の継続実施及び面積拡充等の検討	○	○	◎	○		○							短		R5) 水田湛水を約40ha実施(R5.10.1~R6.2.29実施) R6) 継続して実施	
13	農地における水の貯留・涵養機能の向上に向けた検討	○	○	◎	○		○	○						短	市	R5) R6) 環境保全型農業直接支払制度の活用促進	
14	越前おおの型食・農業・農村ビジョンの推進	○	○	◎	○		○							中	市	R5) R6) 越前おおの型食・農業・農村ビジョンを推進し、「儲かる農業」を目指す農家を支援	
15	認定農業者などの担い手への農地集約・集積やスマート農業の導入による経営体質の強化	○	◎	◎	◎		○							中	市	R5) R6) 担い手への農地集約・集積の推進及びスマート農業機器導入の支援	
16	農業振興地域整備計画の適正運用			◎	○		○							中	市	R5) R6) 適正な運用の継続による優良農地の確保	
17	農業水利施設の老朽化対策及び共同活動による農地維持作業の促進	○	○	○	◎		◎							中	市	R5) R6) 多面的機能支払交付金を活用し継続的に実施	
水資源の適正かつ有効な利用の促進																	
18	年間を通じた節水行動と節水機器の普及啓発	◎	◎	◎	◎	◎	◎							短	市	R5) 節水型シャワーヘッド等購入助成、節水チランの配布 R6) 助成制度の継続、チラン配布の継続、講座等の開催	
19	地下水位表示板やHP等を通じた啓発			◎	○	○	○							短	市	R5) 毎日の地下水位観測と表示板の情報更新、HPの水位情報を毎週更新 R6) 観測と情報発信の継続	
20	水資源の保全と利用の調和を図るための指針作成	○	○	◎	○	○	○							短	—	—	
21	水利用の合理化の検討	◎	◎	◎	○	○	◎							中	市	R5) R6) 雨水利用の促進、節水型シャワーヘッド等購入助成(再掲)	
22	道路消雪施設から機械除雪への転換		◎	◎	○									中	市	R5) 長寿命化計画で、幅員が狭い道路や降雪量の多い地区以外は、散水管が老朽化により使用できなくなったら機械除雪に転換する計画。今年度転換の実績無 R6) 取り組みの継続	
23	慣行水利権から許可水利権への変更の推進	○	◎	○	○		○							中	—	—	
24	雨水の有効利用と貯留浸透の推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎							短	市	R5) 雨水貯留タンク手作り教室の開催 R6) 講座等の開催	
25	大野市営水道事業基本計画に基づいた施設整備等の推進	○		◎	○	○	○							中	市	R5) 取水施設の詳細設計を実施(木本地区簡易水道)。配水管更新工事を実施(菖蒲池地区簡易水道) R6) 引き続き計画に基づいた施設整備等を推進	
26	水道水質の管理徹底		○	◎										短	市	R5) 異常なし R6) 引き続き管理を徹底	
27	連携した湯水対応	◎	◎	◎	◎	◎	◎							中	市	R5) 湯水なし R6) 湯水時は対応	
28	環境基本計画に基づいた生物多様性の保全		◎	◎	○	○	○	○						中	市	R5) 親子で生き物調査等を行い生物多様性への理解を深める「自然ふれあい探検隊」の開催(4回)、イトヨ観察会(3回)、「イトヨ守り隊」の活動(開成中学校のみ募集) R6) 自然ふれあい探検隊およびイトヨ観察会を開催。イトヨの守り隊の実施(開成中学校と陽明中学校で募集)	
29	水辺空間の有効利用と適正管理	◎	◎	◎	○	◎	◎							中	—	—	
30	内水面漁業の振興		○	○	○		◎							中	—	—	
31	水辺の楽校の活用		◎	◎	○	○		○						短	市	R5) 親子を対象とした体験型環境イベントと水循環講座を同時開催(自然ふれあい探検隊) R6) 継続して実施	
32	真名川サイクリングコースの活用		○	◎	◎									短	市	R5) HP等でのサイクリングコースの周知を継続 R6) 継続した活用を促進	
33	河川上流部地域における体験型観光等の推進	○	○	◎	○	◎	◎							中	市	R5) R6) 民間団体の九頭竜湖畔でのボート体験を体験コンテンツとして県外に発信し、ツアーなどを支援	
34	水のみえる施設の適切な維持管理と水を感じることができ環境づくり		◎	◎	○									中	市	R5) 義景清水や芹川とその周辺など水の見える施設の適正な維持管理を継続。湧水地が残る旧裁判所跡地の広場整備の完了 R6) 適正な管理を継続	
35	ごみ捨て防止への意識啓発活動		◎	◎	○	○	○							短	市	R5) R6) 調査・監視を継続	
36	グリーンインフラの活用推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎							中	市	R5) R6) 都市公園への雨水浸透マスの設置の検討、田んぼダムの実施	
37	河川水質の監視		◎	◎	○									短	市	R5) R6) 河川、用水路の水質調査を実施(17か所)	
38	公共下水道の加入と合併処理浄化槽の設置	○	○	◎	◎	◎	◎							短	市	R5) 公共下水道の加入促進を継続的に実施。合併処理浄化槽設置補助額を増額 R6) 公共下水道の加入促進を継続的に実施及びご近所接続奨励金を拡充。合併処理浄化槽設置補助を継続的に実施	
39	有害物質使用事業所への立入調査や水質監視の実施		◎	◎		◎								中	市	R5) R6) 県と連携した調査・監視の継続	
40	窒素負荷低減対策の実施		○	○	◎	○	◎							中	市	R5) R6) 化学農薬・化学肥料の使用を抑え、環境負荷の軽減に配慮した環境調和型農業の促進	
41	海洋プラスチック問題につながる河川等でのごみの不法投棄への対応	◎	◎	◎	◎	◎	◎							中	市	R5) 真名川「クリーンアップふくい大作戦」(6/18開催)を県や漁協などが主催し、市も協力 R6) 継続して実施	
健全な水循環を通じた地域活性化の推進																	
42	水のがっこうを拠点とした地域活性化の推進			◎	○								○	短	市	R5) R6) 「水の教育」「水環境の保全継承」「水によるブランド化」の活動を越前おおの水のがっこうを拠点に推進	
43	湧水地などを巡る散策ルートの設定		○	◎	○									中	市	R5) R6) 総合観光パンフレットや観光ガイドマップに湧水地をルートに含めた「まち歩きコース」を設定し、名水のまちをPR	
44	水をテーマにした観光の推進		○	◎		○								中	市	R5) R6) 名水を汲み、土産として持ち帰っていただく体験商品「ミタス」ペットボトルを販売。御清水をカラフルな提灯でライトアップし、名水城下町の魅力を創出。	
45	SNS等を活用した計画的な広報展開			◎	○									短	市	R5) R6) 地下水低下時やイベント開催時に市ホームページおよび市公式LINEを活用して節水に関する情報を発信	
46	名水を活用した特産品のブランディング			◎	○	◎								中	市	R5) ふるさと納税サイトでの返礼品を通じた名水イメージのPRなどを実施 R6) PRの継続	
47	特産品のプロモーション活動の推進			◎	○	◎	◎							中	市	R5) メディアや雑誌等を活用した広告活動や(株)平成大野屋への事業委託を通じて市の特産品の情報発信や販路拡大を促進 R6) 事業委託先を(一財)越前おおの観光ビューローとし、事業を継続	
48	道の駅「越前おおの 荒島の郷」やECサイトを活用した特産品の販売促進			○	○	◎	◎							短	市	R5) 産直の会による道の駅直売所での物販や越前おおの農林楽舎による販路拡大、(株)平成大野屋への事業委託を通じた取り組みなどにより実施 R6) 事業委託先を(一財)越前おおの観光ビューローとし、事業を継続	
49	市のイメージに合った企業の誘致	○	○	◎	○	○	○							中	市	R5) 企業誘致活動を実施 R6) 誘致の継続	

2. 水循環に関わる人材の育成と水文化の継承								国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
健全な水循環に関する教育、人材育成及び研究の推進																	
1	水循環に関する教育や啓発活動の継続的な実施	○	○	◎	○	○	○	○	短	市	R5) R6)	幅広い世代を対象とした水に関する様々な講座や授業、イベントの開催					
2	教育現場における水に関する講座の実施		◎	◎	○				短	市	R5)	市内小学校のイトヨの里見学の受入れ、市内全校の小学4年生の下水処理センター見学の受入れ R6) 継続して実施					
3	「水の本」を使用した出張授業の実施			◎	○				短	市	R5)	実施なし R6) 要請に応じて引き続き実施					
4	幼少期から水について考え学べる機会の創出	○		◎	○			○	短	市	R5)	親子で参加でき、楽しみながら学べる「イトヨ観察会」「スイスイ課外授業ジュニア」の開催 R6) 継続して開催					
5	水の支援を通じて得た成果による水への感謝の気持ちの醸成			◎	○	○	○		短	市	R5)	水のがっこうにおいて動画の常設放映、東ティモールの視察受け入れ(3/7) R6) 継続して実施					
6	民間活動による水のがっこうの活用			○	◎	◎	◎	○	中	市	R5)	「めいりん塾」の開催(大野地区子ども会育成会連絡協議会)					
7	水に関する書籍・資料等の収集・共有	○	○	◎	○	○	○	○	短	市	R5)	蔵書、資料やデータ等を収集して水のがっこうで共有 R6) 継続して実施					
8	本市をフィールドとした大学や国の研究機関が行う水に関する研究の促進			◎	○			◎	短	市	R5)	大学と共同研究を実施し、成果発表会を開催(2/23、3/20) R6) 継続して実施					
9	シンポジウム等の開催による情報発信			◎	○			○	短	市	R5)	令和6年度水資源保全全国自治体連絡会シンポジウムの誘致 R6) 令和6年度水資源保全全国自治体連絡会シンポジウムの開催					
10	ニーズに合った市民向け講座の企画と運営	○	○	◎	○	○	○	○	短	市	R5)	幅広い世代に向け水に関する様々なテーマで講座等を開催 R6) 市内研究グループや関係機関・団体職員を講師とした講座の企画					
11	水循環の重要性についての理解と関心を深め認知度を向上させるための行事等の開催	◎	◎	◎	○	○	○	○	短	市	R5)	8/1全国一斉ブルーライトアップへの参加(越前大野駅前広場8/13まで実施)、公式ラインで水の日の趣旨や水関連イベントをPR R6) 継続して実施					
12	市民団体等による自発的な取り組みの実施			○	◎	○			短	市	R5)	継続的な湧水地の保全活動、市民団体主催の第20回身近な水環境の全国一斉調査に市民のほか国・県・市が参加					
水文化の保全と継承																	
13	蓄積された調査研究成果の整理集積・共有	○	○	◎	○	○	○	○	中	市	R5)	蓄積されている調査研究成果の整理集積、施策への反映。水のがっこうで共有 R6) 継続して実施					
14	写真や地図など様々な資料のデジタルアーカイブ化	○	○	◎	○	○	○	○	中	—	—						
15	市内外に向けた水文化の積極的な情報発信	○	○	◎	○			○	短	市	R5) R6)	水の授業を行程に組み入れたまちなか遠足を誘致し、市外52校2,629名の児童生徒に大野の水文化をPR。シンポジウムの発表で大野の水文化をPR。市内を訪れた児童生徒に対して大野の水文化をPR。シンポジウム等で大野の水文化をPR。令和6年度水資源保全全国自治体連絡会シンポジウムで大野の水文化をPR。					
16	伝承や遺産の継承と文献や民具等の活用			◎					中	市	R5)	漁具の展示紹介 R6) 漁具の展示紹介					
17	真名川ダム・丸頭竜ダム水源地域ビジョンの推進	◎	○	◎	○	○	○		短	市	R5)	大野市水循環推進協議会と連携・調整を図りながら施策に取り組む R6) 継続して実施					
18	イトヨの里を拠点としたイトヨを通じた環境教育の展開			◎	◎				短	市	R5)	企画展、観察会の開催。イトヨ守り隊の結成・活動(再掲) R6) 継続して企画展、観察会、イトヨ守り隊を開催。					
19	イトヨの里館内の展示物のリニューアルやイトヨ生息地の保全	○		◎	○				短	市	R5)	施設のガイドダンス動画と床面航空写真パネル等の更新。イトヨ生息地の保全対策を実施 R6) イトヨ生息地の保全対策は継続して実施					
20	水文化に関する講座等の開催			◎	○				短	市	R5)	金森長近公がまちづくりに水を生かしたことを発信 R6) 金森長近公がまちづくりに水を生かしたことを発信					
21	市民参加型のイベントの開催	◎	○	◎	○				短	市	R5)	「水まつり(8/16)」を開催 R6) 継続して市民参加型のイベントを実施					
22	ブナの森環境保全林の適正管理と活用			◎	○	○	○		短	市	R5) R6)	委託事業や民間団体の活動により継続的に実施					
23	湧水地数の把握と整理と保存			◎	○				中	—	—						
24	飲用実態のある湧水地の衛生環境の確保		◎	◎	○	○			短	県健康市	(県) R5) (市) R5) R6)	「ふくいのおいしい水」事業はR5秋で終了。市管理湧水地の水質検査を実施					
25	水文化に関する伝統行事等の「おおの遺産」への登録			◎	○				短	市	R5)	情報収集の継続 R6) 情報収集の継続					
新たな水文化の創造に向けて																	
26	市民の意識アンケートの実施			◎	○	○	○		短	—	—						
27	醸造品などの地域産品の継承や販売の促進、新たな商品開発	○	○	○	○	◎	◎		中	市	R5) R6)	産直の会による道の駅直売所での物販や(株)平成大野屋への事業委託を通じた取り組みなどにより販路拡大を促進。R6)(一財)越前おおの観光ビューローへの事業委託を通じた販路拡大を促進するとともに、新規事業により商品の高付加価値化に向けた市内事業者の商品開発等を支援					

3. 災害や気候変動、地下水障害等への対応										国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
水災害に対する防災・減災対策																			
1	給水施設間のループ化・給水ルート耐震化	○	○	◎						中	市	R5	春日木本線の耐震化更新を実施	R6	引き続き基幹管路の耐震化更新を実施				
2	公共下水道ストックマネジメント計画に基づいた更新事業の実施	○	○	◎	○	○	○			中	市	R5	下水処理センターの電気設備およびマンホールポンプの更新	R6	継続				
3	ため池の適正管理や耐災害性の強化の促進	○	○	○	○		◎			中	市	R5	R6	都市公園内調整池の浚渫					
4	治山施設や砂防施設の適切な維持管理・更新	◎	◎	◎	○					中	県農林	R5	治山施設点検 163箇所	R6	治山施設点検154箇所(計画)				
5	自主防災組織の組織強化による防災力の向上	○	○	◎	◎	○	○			中	市	R5	自主防災組織が行う地域防災マップの作製を支援	R6	継続して実施				
6	大野市総合防災マップ(ハザードマップ)を活用した防災力の向上	◎	◎	◎	◎	◎	◎			中	市	R5	説明会や講座等の開催	R6	継続して実施				
7	流域治水の推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		中	市	R5	既存施設を調整池として活用(奥越ふれあい公園)、新堀川流域の浸水対策の検討	R6	調整池整備と流下能力向上のための護岸改修				
8	河川改修による流下能力の向上	○	◎	○	○					中	—	—							
9	九頭竜川上流ダム再生事業の推進	◎	○	○		○				中	国九統	九頭竜川における既設ダムの有効活用により、治水機能の向上を図るため、	R5	施設設計、地質調査	R6	継続			
10	防災井戸等の設置の検討	○	○	◎	○	○	○			中	—	R6	先行事例の把握に向けた情報収集						
11	災害応急用井戸の登録制度運用の検討	○	○	◎	◎	◎	◎			中	—	R6	先行事例の把握に向けた情報収集						
気候変動が水循環に与える影響の調査研究と適応策の検討																			
12	気候変動が水環境に与える影響の情報収集・把握	○	○	◎				◎		中	市	R5	香川大学と共同研究を実施	R6	継続して実施				
13	ダムや河川、地下水帯の持つ機能が連携する活用策の検討	○	○	◎	○	○	○	◎		中	—	—							
14	健全な水循環を維持するために必要となる適応策の検討	◎		○				◎		中	市	R5	大野市環境基本計画に基づいた施策の展開	R6	継続して実施				
15	温室効果ガスの吸収源となる森林の保全整備	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		中	国森林 県農林 市	(国) R5 国有林における間伐 47ha R6 国有林における間伐 50ha (県) R5 県有林における間伐 78ha(見込み)、民有林における間伐 70ha(計画) R6 県有林における間伐 80ha(計画) (市) R5 市有林における間伐 6ha(見込み) R6 立木販売方式による市有林等の主伐							
地下水障害の防止と対策																			
16	地下水の消雪利用禁止の制度周知・監視と遵守	○	○	◎	◎	◎	◎			短	市	R5	大野市克雪会議と市ホームページで周知	R6	これまでの周知を継続して実施。広報おのや市公式LINEなど活用して周知方法を拡大して実施				
17	道路消雪施設から機械除雪への転換(再掲)		◎	◎	○					中	市	(再掲) R5 長寿命化計画で、幅員が狭い道路や降雪量の多い地区以外は、散水管が老朽化により使用できなくなったら機械除雪に転換する計画。今年度転換の実績無 (再掲) R6 取り組みの継続							
18	上水道への加入			◎	◎	◎	◎			短	市	R5	加入促進を実施	R6	加入促進を継続して実施				
19	砂利採取の禁止・抑制への協力の継続			◎	○	○	◎			中	市	R5	R6	大野砂利採取販売協同組合との市街地南部での砂利採取の禁止・抑制に関する協定締結の継続					
20	条例による地下水採取規制の方向性の検討			◎	○	○	○			中	市	R5	大野市地下水対策審議会で審議を開始	R6	継続して審議				
21	地下水位の監視と地下水注意報・警報の発令	○	○	◎	○	○	○			短	市	R5	地下水位の常時監視を継続(注意報・警報発令なし)	R6	地下水位の常時監視を継続し、発令基準を適正に運用、注意報・警報発令時に注意喚起や節水協力の呼びかけ継続して実施				
22	有害物質使用事業所における適正管理と地下水質の監視継続		◎	◎		◎				短	市	R5	R6	県と連携した特定事業場等の監視の継続					
23	有機塩素化合物汚染の浄化対策		○	◎	○					短	市	R5	3か所での地下水の強制排水による浄化対策を実施	R6	継続して実施				
24	汚染状況のモニタリングの継続		◎	◎	○					短	市	R5	年4回、18定点での定期的な水質検査の実施	R6	継続して実施				
25	地下水に配慮した公共事業の実施	◎	◎	◎						短	市	R5	下水道管布設での地下水低工法採用時には、現場作業を確認し作業時排水とし、汲み上げ量を必要最小限となるよう実施	R6	継続して実施				
26	誘致企業等との公害防止協定締結の推進			◎		◎	◎			中	市	R5	R6	引き続き公害防止協定締結を推進					
27	地盤沈下の定期的な監視			◎						中	市	R5	城北町地区の沈下計による定点観測を実施	R6	継続して実施				
28	地盤沈下に関する情報発信を通じた地下水保全意識の啓発			◎	○	○	○			短	市	R5	大野市地下水年度報告書で地盤沈下の状況を公表	R5	継続して実施				
29	井戸枯れ対応タイムラインの作成と運用	○	○	◎	○	○	○			中	市	R5	令和4年度に関係者が行うべき対応の手順を示した時系列の行動計画「大野市地下水水位低下対応計画」を作成、公表(R5は運用なし)	R6	運用・見直し修正				
30	地下水汚染対応タイムラインの作成と運用	○	○	◎	○	○	○			中	—	—							
31	水に関するモニタリング計画の作成と運用	○	◎	◎	○	○	○			中	市	R6	策定に向けた情報収集						